

理科(物理・化学・生物・地学) 立命館大学 全学統一方式 (2 / 2 実施)

<全体分析>

試験時間 80 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数がやや増え、計算量も増加した。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年と同じく、全問とも文章中の空所を埋める形式の問題であった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 (記述・マーク)	力学 (衝突・運動量保存則・力学的エネルギー保存則・放物運動)	物理	弾性衝突された物体が鉛直面内の円運動を行い、その後放物運動する問題。全体的に頻出現象を扱っており取り組みやすかった。おとぎは放物運動の変位ではなく座標であることに注意しなければならない。	やや易
II	空所補充 (記述・マーク)	電磁気 (コンデンサー)	物理	コンデンサー内の電場や電位をガウスの法則を用いて考える問題。その際、見慣れない誘導に従って考えていかなければならず、各面に存在する電荷の作る電場の重ね合わせにより各領域の電場を求めなければならなかった。	やや難
III	空所補充 (記述・マーク)	熱 (気体の状態変化)	物理	バネの付いたピストンによって分割されたシリンダー内の気体の状態変化を考える問題。前半は標準的な問題であった。後半は計算が非常に煩雑であった。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題文の誘導に沿って考えを進めていく能力が要求される。教科書、参考書などをよく読んで基本事項を完全に把握し、標準的な入試問題の演習を重ねておく必要がある。